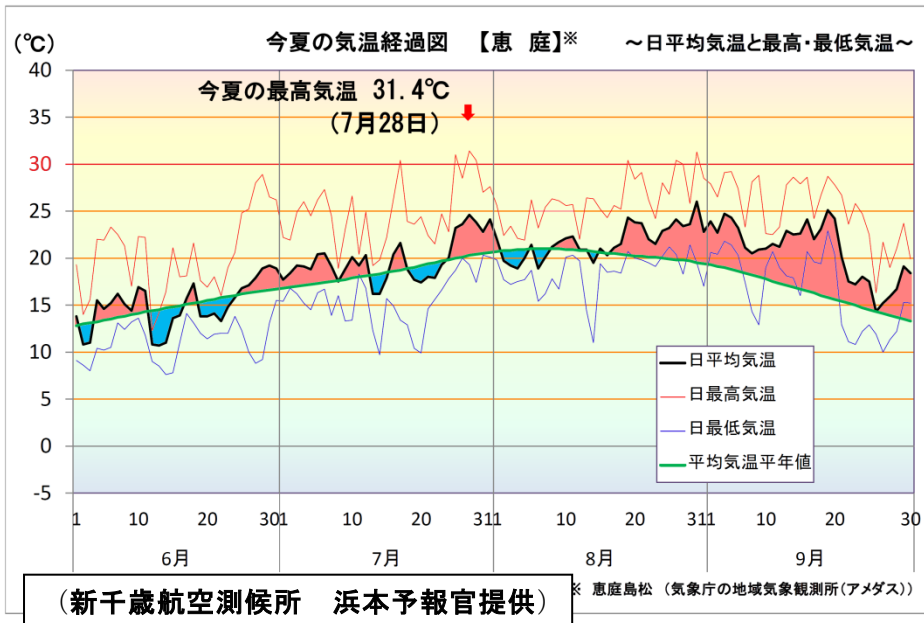


【今年の夏を振り返って】

防災士 清水 為一



平成 24 年の夏は、記録的な暑さになりました。特に、8 月下旬から 9 月は過去に例を見ないほどの高温で、北海道内各地で暑さの記録を更新しました。恵庭でも、昭和 51 年の観測開始以来最も暑い夏となりました。

左のグラフは、恵庭の今年の夏(6～9 月)の気温を表しています。中央のなだらかな曲線は日平均気温の平年値

(過去 30 年を平均) です。それを挟んで上が平年より高く(ハッチ部分)、下は低い事を示しています。期間を通じて高く、特に 8 月下旬(20 日頃)から 9 月一杯、とても高くなっています。また、一番上の細い線は、日最高気温です。最も高かったのは、7 月 28 日ですが、今年の真夏日(日最高気温 30 度以上)は 8 日と平年の 3 倍(平年 3、2 日)近く、夏日(日最高気温 25 度以上)は、8 月が 23 日(平年 15、4 日)、9 月が 16 日(平年 4、0 日)とこれも多くなっています。また、日最低気温でみると 9 月上旬が 18、9 度、中旬が 18、7 度とそれぞれ平年より 5 度と 7、5 度高くなりました。この最低気温は東京の 6 月の梅雨の時期に相当する値です。

このように暑かった原因ですが、偏西風の流れが日本付近で大きく蛇行したため、日本の東海上から西日本にかけて太平洋高気圧が強くなり、黄海付近が気圧の谷となりました。この様な気圧配置が長く続いたことから、北海道付近には南から暖かく湿った空気が入りやすい状態が続いたわけです。

最低気温が高く、寝苦しかった記憶があると思いますが、太平洋高気圧の影響を強く受けたため、恵庭でも本州のような蒸し暑い夏となりました。

この偏西風が蛇行した原因として、“地球温暖化の影響が高緯度地方で大きく現れ、赤道付近との温度差が小さくなってきているため”と指摘する学者もいます。

偏西風は、北極や南極と赤道付近との温度差を解消する地球規模の大気の循環の一つですが、温度差が小さくなると偏西風の勢いが弱まり、蛇行しやすくなります。地球温暖化の影響だとすると今後も同じような状態が現れやすくなるのでは?と心配されます。